

N部門

(知的障害教育部門)

文字、言語、文章等の教材

教材ガイド



鹿本学園キャラクター
シカちゃん モトちゃん

平成27年度 第2回作成

東京都立鹿本学園

目次

- 「が」「を」どれをつかう？
- あっちゃんあがつく 絵・文字カード
- おおきなかぶ
- カタカナ学習
- なにいろかな？
- 赤、青、黄色
- 虹色コップ～右から左から～
- 文字のマッチング

「が」「を」どれをつかう？ ～みじかなことでぶんをつくらう～

対象児童・生徒

・文字を書くのが苦手な児童が、助詞の使い方を練習するための教材です。

・身近なできごとを題材にして繰り返し練習するための教材です。

・短い文を読む練習をしたい児童のための教材です。

N 小1 自閉症学級

太田ステージ III-2 ～ IV以上



ねらい

「が」「は」「に」「で」「を」などの助詞を正しく使って文を作ることができる。

・対象児童の生活に即した言葉カードを作成し、身近な文を作り、意欲的に取り組めるようにした。
・いろいろな文を繰り返し構成できるように、カードにマジックテープを付け、取り外し可能にした。

教材の使い方 (指導方法)

- ① 助詞の部分を空欄にして児童に提示する。
- ② 児童がいくつかの助詞カードの中から正しい助詞を選んで貼る。
- ③ 文が作れたら、教員のところに持ってきて正解を確認する。
- ④ 声に出して読む。
- ⑤ 教員が文を作り変えて、繰り返し学習する。
- ⑥ 選ぶ言葉カードを増やしていく。
- ⑦ カードを児童自身が並べて好きな文を作る。

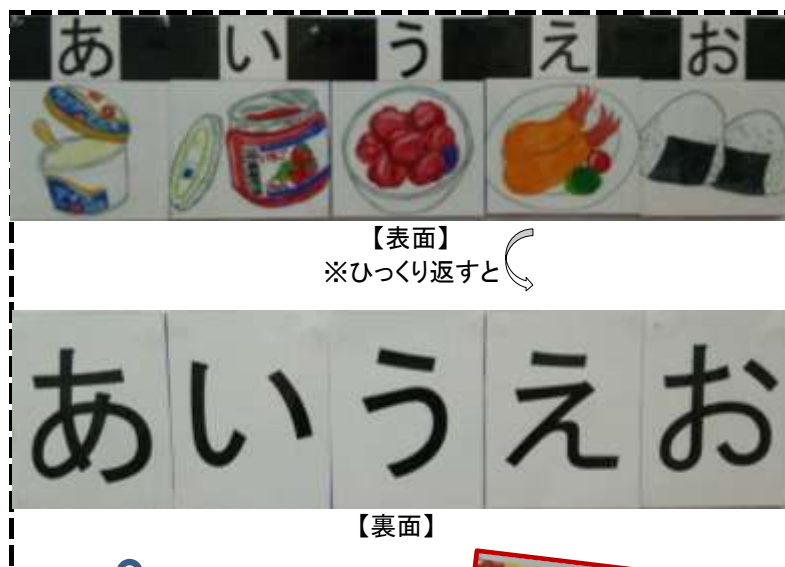
あっちゃんあがつく 絵・文字カード ～声に出して読んでみよう～

対象児童・生徒

- ・発声に課題がある児童
- ・音声と文字のつながりの理解に課題がある児童

N 小3 自閉症学級

太田ステージ II ~ III・2



ねらい

文字に合わせて声を出す。

・絵本「あっちゃんあがつく たべもの あいうえお」の絵を絵カードにしました。余計な刺激となる背景をカットして、たべものだけを描いてあります。

・ホワイトボードに貼る際に、マグネットが文字や絵を邪魔しないように、極小マグネットを発砲スチロール版に埋め込んで作製しました。



・子供たちには、お馴染みの...
「あっちゃんあがつく たべもの
あいうえお」 原案:みねよう
作:さいとうしのぶ
出版社:リーブル
美味しそうな食べ物が登場して、みんなの目も釘づけ！

教材の使い方 (指導方法)

- ・絵カード面で注目を促した後、文字カード面を提示し発声させ、文字と音声のつながりを理解させる。
- ・発声難しい児童には口形模倣を促す。
- ・文字が分かる児童には、絵本の中のセリフ「あっちゃん あがつく あいすくりーむ」などの一文を言う課題を設定する。
- ・マイクを使って、発声意欲を高める。

おおきなかぶ ～協力してかぶを引っ張ろう～

対象児童・生徒

- ・発話がない児童や文字が読めない児童、文字が読める児童と児童の実態に幅がある。
- ・実物や絵、写真カードなどを使用し、視覚的支援を行っている。

N 小2 自閉症学級

太田ステージ I ~ III - 2



ねらい

- ・友達と言葉かけなどでやりとりを行い、協力しておおきなかぶを引っ張って抜く連帯感や達成感をねらいにしている。

- ・かぶの種、芽、おおきなかぶをフェルトや布などで作成した。
- ・かぶの葉を1枚ずつ持って引っ張れるようにした。
- ・種をまく順番、種を数える人、かぶを引っ張る順番を写真カードで提示し、セリフも文字カードで提示した。

教材の使い方 (指導方法)

- ①絵本読みを行う。
- ②ホワイトボードに、活動内容を提示し、種をまく順番、種を数える人、かぶを引っ張る順番を写真カードで提示する。セリフの文字カードを提示し、全員でセリフの練習を行う。
- ③一人ずつ順番に前に出て、かごの中から、かぶの種を植え、順番で毎時間1人の児童が種の数える。全員でセリフの練習を行う。
- ④一人ずつ順番に前に出て、かぶの葉を引っ張る。かぶが抜けなときは、友達を呼びに行き友達と協力してかぶを引っ張る。
- ⑤引っ張りあげたかぶを全員で容器に入れる。



カタカナひょうをつくろう ～カタカナをよもう～

対象児童・生徒

書字が難しい児童に文字への注目を促したり、文字の音を確認しながら注目しつつ文字のマッチングや物の名称を完成させていくことをねらいとしています。

N 小4 知的障害学級

太田ステージ III - 1



ねらい

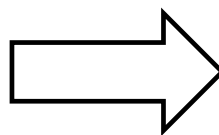
- ・カタカナに親しむ。
- ・カタカナを読む。
- ・カタカナで物の名前を確認する。

ポイント

- ①ひらがなも書いてあるカタカナ表を用い、児童が一人でも読めるようにした。
- ②絵が描いてあるカタカナ表を用い、文字のイメージをしやすいようにした。
- ③面テープを用いて文字を貼る操作をすることで文字に親しめるようにした。

教材の使い方 (指導方法)

- ①カタカナ表を見る。
- ②使われる文字を選ぶ。
- ③カタカナ表に文字を貼る。
- ④貼った文字と一緒に読み、音と文字を対応させる。
児童の様子に合わせて提示する文字の量を減らしたり、「○をください」とやりとりをする。



なにいろかな？ ～二つの属性を選び取る力を育てる～

対象児童・生徒

・名詞を理解しているが、用途や属性の理解が苦手な児童向けの教材です。

・色の理解を伸ばしたい児童向けの教材です。

N 小3 自閉症学級

太田ステージ II III-1



ねらい

- ・2枚の属性を表すカード（色、物）に注目する。
- ・課題ボードの中から2つの属性が合成されたイラストや文字を選び取る。

・児童一人一人が取り組める課題ボードを準備して、待ち時間を少なくした。

・主に国語・算数の集団の学習の中で使用

教材の使い方 (指導方法)

・教員の提示した2枚のカード（色、物）に注目します。

・二つのカードを見て、二つの名詞を合成したものを、個人の課題ボードから選び取ります。（「赤」と、「ぼうし」のカードを見て、「赤いぼうし」のカードを選び取る）。

・選び終えたところで皆の前で発表をして、色の理解を高めていきます。

赤、青、黄色 ～色を覚えよう～

対象児童・生徒

- ・色と色の名前が一致しにくい児童・生徒
- ・対象物に視線が向きにくい児童・生徒
- ・集中力が続かない児童・生徒

N 知的障害学級

太田ステージ I ~ II



ねらい

- ・児童・生徒が関心をもって取り組む
- ・色と色の名前が一致する

色画用紙を使った教材などを作成したが、集中力が続かなかったので、対象生徒とカード作りから始めた。鉛筆を持つことにも関心が薄い生徒なので、練習もかねて色を塗る活動も取り入れた。色を塗りながら「あか、消防車と同じ色だね」などとやり取りをしながら作成。裏側にはひらがなで色の名前を入れ、ラミネート加工をした。

・作るところから参加できたからか、カードを見せると積極的に取り組むようになり、色の名前もわかるようになって

教材の使い方 (指導方法)

- ・個別の課題に取り組む時間に使用。
(同等の理解度の児童・生徒で、かるたの要領で使用も可能)
- ・色カードを見せながら色の名前を教員が言うのを聴く。
- ・教員の後について色の名前を言う練習をする。
- ・かるた取りの要領で繰り返し練習をする。

(例) 教員

――色紙を見せる

――色の名前を言う

――色の名前を言う

――色のカードを見せる

- ・とったカードを見ながら音や文字を確認する。

児童・生徒

同じ色のカードをとる

色のカードをとる

文字のカードをとる

色の名前を言う など

虹色コップ

～右から左から～

対象児童・生徒

- ・数字や文字の理解や、左右の概念形成が難しい児童向けの教材です。
- ・注目するのが難しい児童向けの教材です。

N 小6 自閉症学級

太田ステージ II ～ III - 2



ねらい

- ・数字を見分けることができる。
- ・左右からの順番を数えることができる。

・パソコンをテレビに接続し、大きな画面で学習に取り組む。

- ・児童の実態に合わせて、問題を設定する。
例①「右から 3番目は？」
例②「黄色から 右に2番目は？」

・主に国語・算数の集団学習で使用する。

教材の使い方 (指導方法)

- ① 1人ずつ前に出て問題を読んだり、聞いたりする。
- ② 正しいと思うコップにタッチ！（同時に教員がクリック！）
- ③ リンク先のページに飛び、正解ならば、しかちゃんが登場！
- ④ 正解のチャイムが鳴ったら、みんなで拍手！

※誤答の場合は元の場面に戻り、再挑戦します。

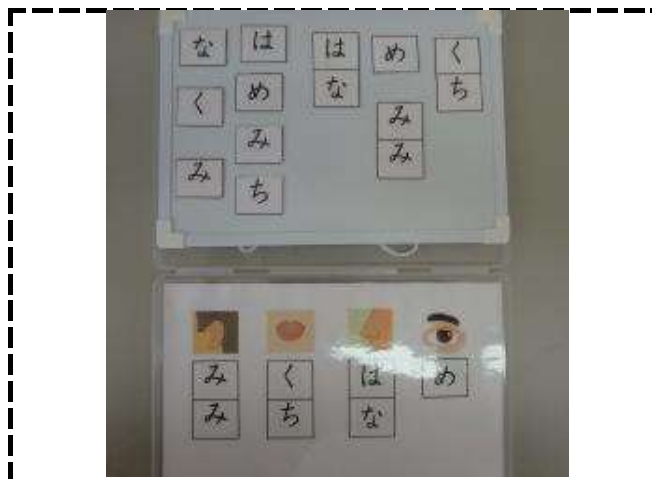
文字のマッチングをしよう～身体の名前～

対象児童・生徒

- ・4色の色や1から3までのマッチングができる生徒対象。
- ・「トイレ」や「ください」等、いくつかのサインを覚えてきたが、自分からサインを出して伝えることが課題の生徒対象。

N 中1 Ⅰ度・重複学級

太田ステージ Ⅰ



ねらい

- ・文字チップのマッチングができるようになる。
- ・手元を集中して見る。
- ・身体の名前を知る。

- ・主に朝の自立活動の時間に個別指導で使用。
- ・生徒にとって身近で覚えて欲しい身体の名前を取り上げた。文字の下にマグネットシートを入れて磁石でくっつくようにした。
- ・教員と身体の名前を確認する時は、「〇〇どこ？」の言葉かけで指さしをして伝えられるようになってきた。

教材の使い方 (指導方法)

- ①文字チップ(文字のかたまり)を下の同じ文字の上に貼る。
- ②正しくできたか教員と一緒に一文字ずつ確認する。
- ③物の名前を指さしや身振り動作で示す。
- ④一文字ずつの文字チップを下の同じ文字の上に貼る。
- ⑤正しくできたか教員と一緒に一文字ずつ確認する。

文字のマッチングができるようになったら、文字がないマスに文字チップが置けるように繰り返し学習していく。